

雨宮キャンパス跡地利用計画に係る
環境影響評価方法書に対する市民意見及び事業者の見解

平成 28 年 5 月 20 日時点

イオンモール株式会社

方法書に係る意見の概要

意見の概要	事業者の見解
<p>●環境影響評価項目に「降雨に伴う流出形態の変化と梅田川への影響が考慮されていない。」</p> <p>雨宮キャンパスの敷地の大部分は実験農場や耕作地であり、事業実施に伴って土壌部が減少することで降雨時の流出量が増加すると思われる。</p> <p>この地区の下水処理は合流式であることから、雨天時の処理能力と流出先である梅田川への越流(雨水+汚水)の影響について検討が必要である。</p> <p>流出係数が増えるような開発がおこなわれた場合、以下の点より環境影響評価の対象になると考えられる。</p> <p>①梅田川への越流頻度がどの程度増えると予想されるのか</p> <p>②下流への水質や河川環境への影響はどうか</p> <p>場合によっては雨水貯留施設等が必要になると思われる。</p> <p><参考></p> <p>貯留雨水の排水利用として、可能であれば北六番丁側の幅員 3.5m の歩道状空地に地上水路を設けて排水する。また、地上水路を四ツ谷用水の模擬水路として位置づけ、当時の構造(石積みの土側溝)で流すことで、環境、景観、歴史教育の面で有効と思われる。</p>	<p>事業実施に伴う降雨時の流出量の変化や梅田川への越流の影響については、今後、予定している開発行為許可手続きの中で仙台市(建設局)と雨水流出抑制対策について協議を行いながら、検討していく予定です。その中で、必要に応じて具体的な対応についても適切に検討していく予定としておりますので、環境影響評価項目として選定しておりません。</p> <p>ここで検討した内容については、環境影響評価準備書の「事業の概要」における「排水計画」に記します。</p>
<p>●雨宮地区の歴史的な特色を踏まえた環境影響評価項目を追加する。</p> <p>雨宮地区の北六番丁には、昭和初期まで「四ツ谷用水」の本流が流れており、用水とされ桜の景観から「桜川」と呼ばれていた。</p> <p>雨宮キャンパス跡地利用計画においては、歴史的背景を踏まえた環境影響評価が必要と考える。</p> <p>「四ツ谷用水」の景観を後世に伝承させるためにも、当地区の歴史的な特色が計画に反映できるように環境影響評価項目に加えてほしい。</p>	<p>環境影響評価における景観は、現況の景観資源や眺望への影響について、視覚的な観点から評価を行うものであることから、計画地周辺で視認できない「四ツ谷用水」について環境影響評価項目に加えることは難しいと考えます。</p> <p>平成 28 年 3 月 1 日に都市計画決定された雨宮地区計画のうち、土地利用の方針の中で、地区の歴史に配慮した景観形成を図ることとされており、今後、その方針に基づいて具体的な計画を策定してまいります。</p>